

るからです、自利的であるからです、一日も早く此く弊習を腦裏より消去して健全なる家庭を創起するの念を育成する必要があらうかと思ひます、大きく云へば國家の進歩に關係するわけで研究するの價値ある一の大問題で御座います、圓滿と不和の二岐になるのは個人的なると家族的なるとに依ります。(未完)

よま

於東京小石川 ひらいは としたた

○感心なこ供、私が四月上旬迄おりました灘魚崎といふところに、四才許の女の子がありました。あるとき下女につれられて遊びにでました其の時は雨の降たあげくであつたから、みちがぬかつて所々に水がたまつておりました、はうらゝあそび

まはつてゐるうちに下女の不注意から、しまいねその水たまりの中におちこんでしまつて、あたまから足の先までどろだらけになつたけれども、その子はへーきですぐ立つてかんがへておりました。下女はとんだそゝをしたらと思つてあつげにとられて、その子をだます考へもなかつた、しばらくしてその子は下女にむかひて、こんなになつてうちにかへるとお母さんにねーやがきつとひどいめにあらうから、今日はお母さんにわたいがひとり水たまりの中におちたんだといふから、ねーやはだまつていよといひました。こ供ながらかよーに自分の母が下女にたいしてきびしいのを知て居て他を思ひやるといふとは、この幼き子供心にもわさまへてゐるのであります、ましておとなにいておやであります故に家庭に於てはもちろん、

吾々教育者はその心持でうまくそれらの志想を利用して凡ての點に感化訓練して行かねばなりません。

お母さんちゝがのみたいともいはん幼子の口よりわたいがひとりでおちたといふから、ねーやはだまつていよ、といひたる言葉こそ味ふべきことではありませんか。

○母の訓練　しばらく前のことですが、私の知人に一人の子供がうまれました、その父はうまれな二三ヶ月前に某官廳の官職に任命せられて赴任しましたから、うまれた子はどんな子であるか、すこしも知らないでいたこと五年である。その間母親の手一つでいろ／＼のくげんをして朝夕愛敬をつくし又その子の大きくなるのを見て己の心をなぐさめなどしてくらしておりました、又そ

の子に父のことをしらせんため毎朝夕父のしやしんを見せていろ／＼はなしてきかせておりました父は五年めで始めていへにかへりて、まちにまつたるわが愛子のみることができたのである、父は入ぶりでわがやのかどにたち、いま歸つたとこゑをかけた、そゝすると五才になるわが子がでゝきたのである、父はわが子なるかいなやをしらなかつた、しかるにその子は、とつぜんお父さんおかへりとうれしなみだをうかべてさげんだのである、父はあまりのことゝてかへすことばもなく、立つておると、母はよゝかかへりと兩手をついてうれしなみだにしすんだ、かくて親子三人は五年ぶりの物がたりゆめかうつゝかと思はるゝほどであつた、じつにこのこの母は己のみを以て暖か柔きおんわいをつたへ、父のしやしんを以てげんわいな

る諸徳を養ひ、以て自分のつとめを全ふしおつとにたいしては留守中の任務を遂行したのである。

かくの如きは良妻賢母といふてもはづかしくあるまい、かくの如き心がけは一般世のお母さんたちに望みたいことであります、しておつとが多年遠く外國にあるとか、又はいろ／＼の事情のために家にあることのできない家庭においてはなをさら一そーその心がけが大切であるとおもいます。

偉人の學校時代 (三)

グレンサム及びケムブリッヂに於ける

ニュートン (承前) 米 深

ニュートン又、鉛筆畫の妙手となりぬ。蓋し皆木炭を以て、家の壁に練習せしものにて、之か爲壁は、其の考によりて描きたる形の痕跡、模様、

生物、形象、線等を以て充さる。而して肖像の内には、チャールス一世、ドグナル、ドン、及びグレンサム校に於て師事せしズトグ等の頭首あり又禽獸、人類、船舶、其の他數理上の表式等、雜然たるを見る。此の壁、千七百十一年、其の家の破壊せらるゝ迄は存せりき。

ニュートン又特に、詩句を作るに卓越せることは、世自から定評あるも、今に至つて、斷翰零墨も、確然之を徴すべきもの存するなし。而して彼は、晩年屢々、自から其の詩を好まざることを説けり

ニュートン、十五歳に達するや、母の園圃の小作事務に任ずるが爲に、グレンサムの學校より、家に呼び還され、其の後屢々、穀物其の他の農産物賣却の事に従ひ、グレンサムの市場に送られしが